深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第84集

熊野遺跡Ⅷ

2007

深谷市教育委員会

熊野遺跡Ⅷ

2007

深谷市教育委員会

序

平成18年１月１日に新たに誕生した深谷市は、埼玉県北部に位置し、市域の南は比企丘陵と接し、北端は群馬県と接しています。この広大な市域の間を利根川・荒川という国内でも有数な大河川が貫流しています。

こうした豊かな自然環境のもと、古代人の暮らした足跡が埋蔵文化財として今なお多く眠っています。なかでも、縄文時代草創期の土器を出土した西谷遺跡をはじめとして、弥生土器で有名な上敷免遺跡、県指定史跡の鹿島古墳群、榛沢郡家正倉跡と想定される「中宿古代倉庫群跡」や国指定重要文化財「緑釉手付瓶」を検出した西浦北遺跡など、重要な遺跡が多数存在します。

今回報告する熊野遺跡は、JR高崎線岡部駅や国道17号線に近いことに加え、平成元年に開始された岡中央土地区画整理事業などにより各種開発が進み、これらに伴う発掘調査が多数実施されてきました。その結果、７間×３間をはじめとする大規模建物群や竪穴住居跡などとともに、道路状遺構・連房式鍛冶工房・石組井戸など特殊な遺構も検出されました。さらに、役人が使用したと考えられる帯金具や円面硯なども数多く出土しており、熊野遺跡は役所的機能を有していたことが想定されています。

本報告書は、アパート建設に先立ち平成18年に実施した162次調査の成果をまとめたものです。住居跡や溝跡などが検出され、熊野遺跡の性格を考える上での資料を追加することができました。本書が学術・教育関係はもとより、文化財の保護・保存の啓蒙・普及を図る資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成まで、多大なるご理解とご協力を賜りました関係各位・諸機関に心より御礼申し上げます。

平成19年３月

深谷市教育委員会
教育長　猪野幸男

例　言

1．本書は、埼玉県深谷市岡に所在する熊野遺跡の、平成18年度に実施した162次発掘調査の成果をまとめたものである。

2．文化財保護法第93条第１項に基づく事業者あての指示通知は、次の通りである。
　平成18年３月31日付け教文第３－1132号

3．文化財保護法第99条に基づく発掘調査の通知は、次の通りである。
　平成18年４月７日付　教文第２－11号

4．発掘調査は宮本直樹と竹野谷俊夫が担当し、平成18年４月11日から平成18年４月26日にかけて実施した。

5．出土品の整理及び実測・観察表の作成は竹野谷俊夫が行い、図版作成は、宮本直樹と竹野谷俊夫が行った。

6．本書の執筆は、宮本直樹が行った。

7．本書に掲載した資料は、深谷市教育委員会が保管している。

凡　例

1．発掘調査位置図は岡部町都市計画図（１/２,500及び１/10,000）を、遺跡分布図は国土地理院発行『本庄』（１/25,000）を使用した。

2．遺構実測図は、現場では基本的に１/20、カマド実測図を１/10とし、本書掲載の段階で１/60及び１/30とした。遺物については、基本的に１/３で掲載した。

3．図中の方位は、座標北を示す。

4．遺物観察表の数値に（　）のあるものは推定値、《　》のあるものは残存値を示す。

5．土層断面図及びエレベーション図のスクリーントーン（斜線）は、地山を示す。また、図中の数値は、標高値を示す。

目　次

序

例言・凡例

目次

Ⅰ　発掘調査の経緯及び経過……1
　1．発掘調査の経緯……1
　2．発掘調査・整理報告の経過……1
　3．発掘調査・整理・報告書刊行の組織……1

Ⅱ　遺跡の地理・歴史的環境……3
　1．地理的環境……3
　2．歴史的環境……3

Ⅲ　発見された遺構と遺物……5
　1．熊野遺跡の概要……5
　2．発見された遺構と遺物……5
　3．まとめ……5

挿図目次

第1図　熊野遺跡の範囲と調査地点……2
第2図　熊野遺跡162次調査位置図……2
第3図　周辺の遺跡分布……4
第4図　熊野遺跡162次調査全測図……6
第5図　1号住居跡実測図……7
第6図　1号住居跡カマド実測図……7
第7図　1号住居跡遺物出土状況図……8
第8図　1号住居跡出土遺物実測図(1)……9
第9図　1号住居跡出土遺物実測図(2)……10
第10図　1号住居跡出土遺物実測図(3)……11
第11図　1号住居跡出土遺物実測図(4)……12
第12図　1号住居跡出土遺物実測図(5)……13
第13図　1号住居跡出土遺物実測図(6)……14
第14図　熊野遺跡162次調査区周辺遺構図……18
写真図版1　162次調査検出遺構・遺物(1)
　　2　162次調査出土遺物(2)

Ⅰ　発掘調査の経緯及び経過

1．発掘調査の経緯

埼玉県北部に位置する深谷市は、埋蔵文化財の宝庫として古くから知られてきた。なかでも、縄文時代草創期の土器を出土した西谷遺跡や、弥生式土器で知られる上敷免遺跡、緑釉手付瓶を出土した西浦北遺跡など、著名な遺跡が多い。

熊野遺跡は、深谷市の北西に位置する。JR岡部駅のすぐ北西にあたり、県道蛭川普済寺線と国道17号線に挟まれた範囲である。平成元年に『岡中央土地区画整理事業』が立ち上がり、事業が進展するに伴い景観が激変しつつある。

今回報告する発掘調査は、アパート建設に先立ち、平成18年に実施したものである。

まず、平成18年３月６日に、岡奎一氏（以下、「事業主」と記す）から、埋蔵文化財の所在についての照会が深谷市教育委員会（以下「市教委」と記す）にあった。市教委では、開発予定地が熊野遺跡の範囲内であり、遺構の有無を確認するための試掘調査が必要である旨を回答した。３月10日に、試掘調査依頼書が事業主から提出されたので、３月17日に試掘調査を実施した。調査の結果、竪穴住居跡一軒を検出した。

これを踏まえ、市教委と事業主で協議を重ねた結果、工事の変更は不可能であり、記録保存のための発掘調査を市教委が実施することで決定した。文化財保護法93条の第１項に基づく埋蔵文化財発掘の届出が、３月30日に事業主から埼玉県教育委員会教育長宛に提出された。

これを受けた市教委では、文化財保護法99条に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知を、平成18年４月７日付けで埼玉県教育委員会教育長へ提出した。

2．発掘調査・整理報告の経過

(1)　発掘調査の地番

調査地点の地番は、深谷市岡字内出2855-4番地他である。岡中央土地区画整理事業では、24街区８画地の一部と９画地である。

熊野遺跡は、過去に多数の調査が実施されてきた。今回報告分は、平成４年度以降実施した調査のうち162次調査と命名したものである。

(2)　表土除去

発掘調査は、４月11日から着手した。作業は、まずバックホーによる表土除去から始めた。

表土から30～50cm掘り下げると黄褐色ローム面が表れたので、これを遺構確認面とした。

(3)　遺構確認

表土除去に続き、遺構確認作業を実施した。竪穴住居跡１軒を確認し、写真撮影を行った。

(4)　遺構掘り下げ及び図化作業

住居跡の掘り下げは、まずベルトを設定し、床面を検出した段階で断面観察を実施し、図化した。

その後ベルトを取り外し、遺物の出土状況の写真撮影を行い、図化した。遺物の取り上げ後、柱穴・壁溝などの掘り下げを実施した。さらに、カマドの調査が終了した時点で、完掘状況の写真撮影を実施し、その後に全測図を作成した。

調査の全工程が終了し、機材等を撤収したのは４月26日である。

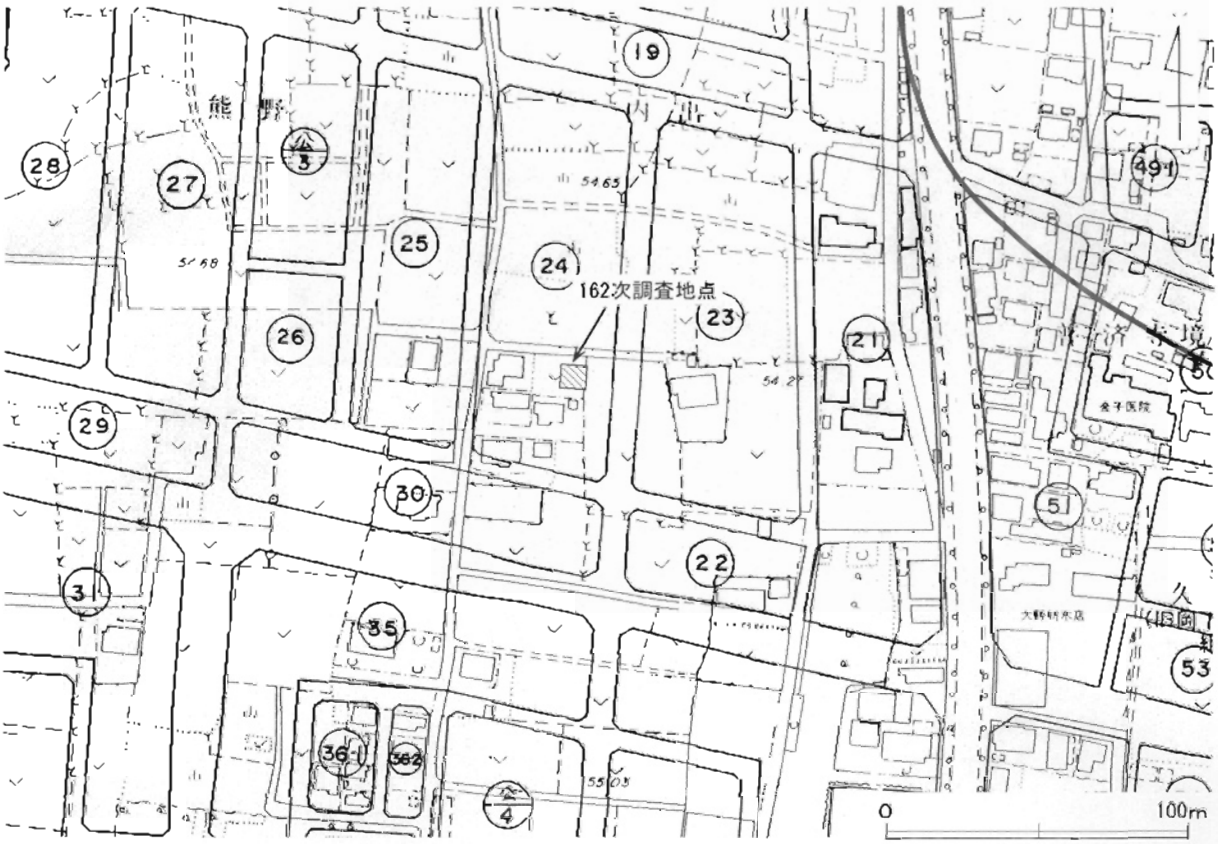
(5)　整理・報告

発掘調査で出土した遺物の水洗・接合は、５月より開始した。これと並行して、図面の整理作業を行った。遺物の実測は６月から行い、併せて図版の作成を行った。８月以降原稿を執筆し、入稿したのは19年１月のことであった。

3．発掘調査・整理・報告書刊行の組織

深谷市教育委員会	教育長	猪野幸男
	教育次長	古川国康
	次長	中村信雄
同岡部教育事務所	所長	柳田一郎
	課長補佐	鈴木八十子
	主査	金井登美子
	〃	根岸　宏
	〃	鳥羽政之
	〃	森田富雄
	〃	宮本直樹
	臨時職員	竹野谷俊夫
	〃	黒澤　恵
	〃	佐藤由江
	〃	布施みゆき

第１図　熊野遺跡の範囲と調査地点



第２図　熊野遺跡162次調査位置図

Ⅱ　遺跡の地理・歴史的環境

１．地理的環境

深谷市は、埼玉県の北部に位置し、市内をJR高崎線、関越自動車道などが通る。

熊野遺跡は、深谷市岡字熊野他に所在する。JR高崎線岡部駅の北西に位置し、東西1,300m、南北1,000mの範囲に及ぶ。近年は市街化が進んでいる。

遺跡は、櫛挽台地の北部に立地する。南部には標高116mの山崎山とこれに連なる諏訪山が存在する。遺跡の中心から600m北は崖線となり、比高差20mをもって妻沼低地へ移行する。また、櫛挽台地の西は藤治川により区分され、本庄台地と接している。

２．歴史的環境

熊野遺跡の立地する櫛挽台地北部は、早くから開発が進み、これらに伴う発掘調査の結果、縄文時代～中世に至る様々な遺構・遺物が検出されている。

縄文時代では、西谷遺跡から押圧縄文・爪形文土器などが検出され、草創期の土器として注目されてきた。遺構では、四十坂遺跡で前期の竪穴住居跡が、水窪遺跡や菅原遺跡から中期の住居跡が、上宿遺跡で後期の敷石住居跡が検出されている。

弥生時代では、四十坂遺跡より縄文晩期～弥生初期の土器群が出土し、弥生初期のまとまった資料として早くから注目されてきた。その後、平成２年の発掘調査では、再葬墓や土壙墓群が検出された。

古墳時代に至ると、遺跡数は急増し、重要な遺構も多数確認されている。

四十坂遺跡からは、五領～和泉期に至る方形周溝墓群が検出され、この段階から後期群集墳まで連綿と墳墓が営まれていたことが知られる。中でも四十塚古墳は、横矧板鋲留短甲・五鈴鏡板付轡などを出土し、これらの遺物から５世紀後半の当地域の首長墓と捉えられている。

その後、６世紀代には、やはり首長墓と想定される寅稲荷塚古墳（前方後円墳）が四十塚古墳群内に出現する。これ以降、首長墓は、お手長山古墳（帆立貝式古墳）・内出八幡塚古墳（円墳）・愛宕山古墳（方墳）と順次南東方向へ移動しながら単独で築造されたことが認められる。

この他に、熊野遺跡の東に接する白山古墳群では、６世紀代の古墳跡24基（円墳23、帆立貝式古墳１）が調査された。弾琴埴輪や壺を捧げ持つ巫女の埴輪など６体の人物埴輪が、ほぼ完全な形で出土した。

なお、櫛挽台地北部における古墳時代の集落は、現在のところ中宿遺跡や上宿遺跡など数か所が確認されているに過ぎない。この時代の集落は、妻沼低地に立地する砂田前遺跡・岡部条里遺跡や本庄台地上の六反田遺跡・大寄遺跡・宮西遺跡などがあり、櫛挽台地以外に分布の中心が認められる。

奈良～平安時代になると、様相は一変する。それまで墓域として利用されてきた熊野遺跡内に、突如集落が営まれる。これまでに162次に及ぶ調査が実施され、700軒を超える竪穴住居跡、150棟の掘立柱建物跡をはじめ、道路状遺構・大溝・石組井戸・連房式鍛冶工房など特殊な遺構が多数検出された。また、円面硯・帯金具・唐三彩の陶枕・刻字紡錘車・陶製仏殿・置きカマドなど他の集落では見られない貴重な遺物も多数出土している。

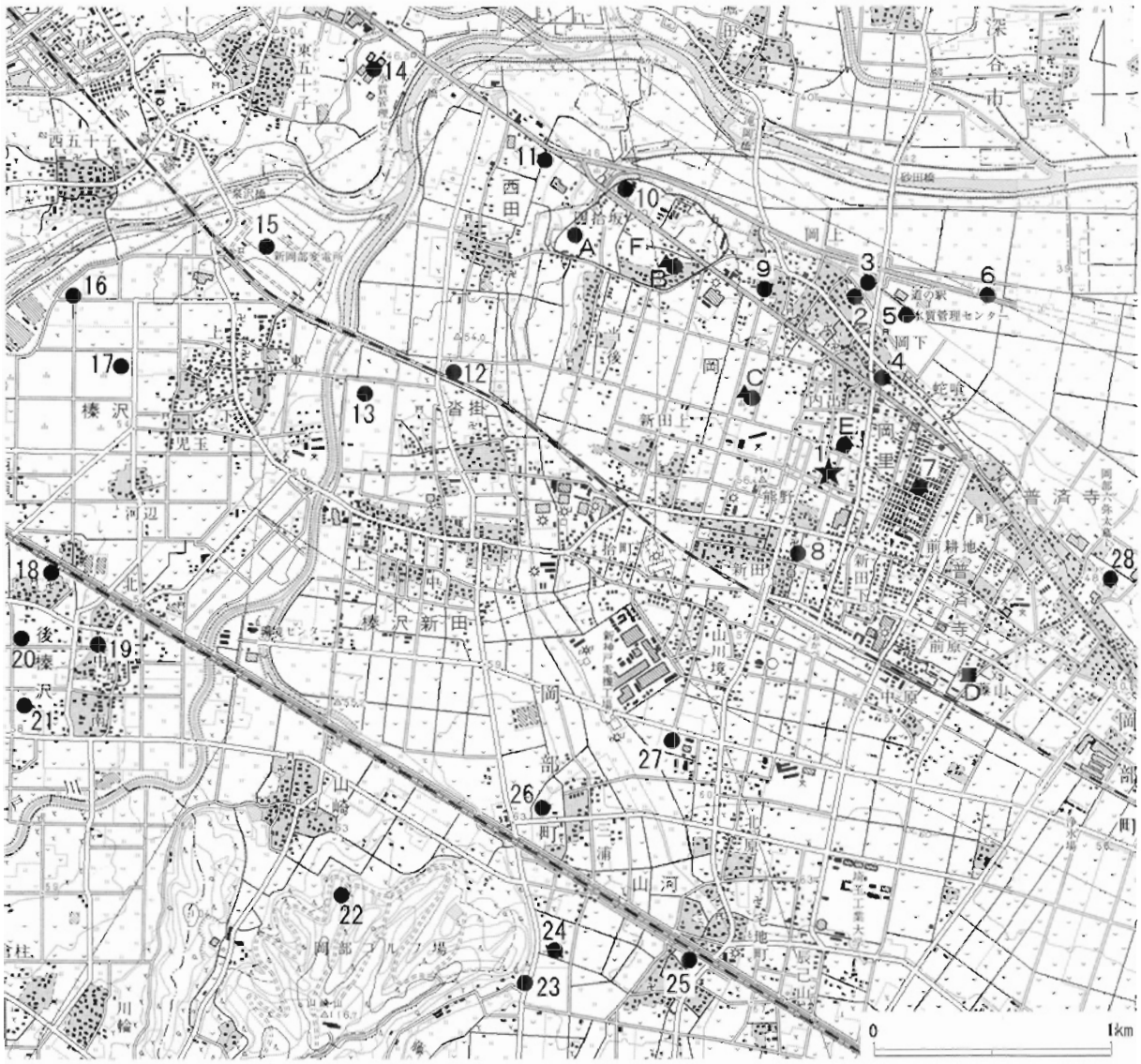
なお、集落の開始時期は、131次調査１・２号竪穴住居跡から出土した畿内産土師器の年代観から、７世紀第３四半期と考えられている。さらに、１次調査において検出された７間×３間をはじめとする大型建物の存在から、該期の熊野遺跡は初期評家と想定されている。

また、櫛挽台地縁辺部に位置する中宿遺跡からは、大規模な総柱式建物跡20棟が規則的に配置された状態で検出された。榛沢郡家に伴う正倉跡と推定され、７世紀後半の成立であることから熊野遺跡との関連が想定される。これと前後して台地直下には「滝下大溝」が掘削された。その北側には条里遺構が検出されたことから、灌漑と運河の機能を併せ持っていたことが考えられる。

さらに、熊野遺跡の北東に位置する岡遺跡では、８世紀第２四半期と考えられる蓮華文軒丸瓦などの瓦が多量に出土する範囲があり、廃寺跡と推測されてきた。平成13年度に町教委が実施した確認調査により、版築された基壇状遺構が検出された。近接する住居跡から「榛」の刻字瓦や「寺」と墨書された土師器坏も出土し、寺院跡であることが立証された。

このように、奈良～平安時代の櫛挽台地北部は、中宿遺跡・熊野遺跡を中心として、その周辺に集落や寺院が展開していた状況が窺われる。

古代から中世にかけては、まず岡部六弥太館跡があげられる。方形に廻る堀跡や井戸、土壙墓などが検出された。同様な堀跡は、熊野遺跡と白山遺跡からも検出され、館跡に付属するものと推定されている。西龍ヶ谷遺跡では、軸を揃えて並んだ６棟の掘立柱建物群が確認された。



1.	熊野遺跡	(律令期集落・官衙・中世居館)
2.	中宿遺跡	(郡衙正倉・律令期集落)
3.	滝下遺跡	(河川跡・律令期集落)
4.	岡廃寺	(寺院跡・古墳～律令期集落)
5.	岡部条里遺跡	(古墳集落・条里水田・律令期居宅)
6.	砂田前・樋詰遺跡	(古墳～平安集落)
7.	白山遺跡	(古墳群・律令期集落・中世居館)
8	新田遺跡	(律令期集落)
9	上宿遺跡	(縄文・古墳～律令期集落)
10.	四十坂遺跡	(縄文集落・弥生再葬墓・周溝墓・古墳群)
11.	原ケ谷戸遺跡	(縄文・古墳集落・古墳群)
12.	水窪遺跡	(縄文・古墳集落・周溝墓・古墳群)
13.	新井遺跡	(律令期集落)
14.	東五十子遺跡	(古墳・中世集落)
15.	六反田遺跡	(古墳・中世集落)
16.	大寄遺跡	(縄文・弥生～律令期集落)
17.	西浦北遺跡	(縄文・古墳～律令期集落)
18.	東光寺裏遺跡	(縄文・平安集落)
19.	榛沢六郎成清館跡	(中世)
20.	石蒔遺跡	(古墳～平安集落・周溝墓)
21.	地神祇遺跡	(古墳～平安集落)
22.	千光寺遺跡	(古墳群・平安集落)
23.	西谷遺跡	(縄文)
24.	茶臼山遺跡	(古墳群)
25.	伝上杉館跡	(中世)
26.	山河聖天社	(中世)
27.	西龍ヶ谷遺跡	(律令期集落・中世居館)
28.	伝岡部六弥太館跡	(中世)
A.	四十坂浅間山古墳	(円墳)
B.	寅稲荷塚古墳	(前方後円墳)
C.	お手長山古墳	(帆立貝式古墳)
D.	前原愛宕山古墳	(方墳)
E.	内出八幡塚古墳	(円墳)
F.	四十塚古墳群	(古墳群)

第３図　周辺の遺跡分布

Ⅲ　発見された遺構と遺物

１．熊野遺跡の概要

熊野遺跡は、櫛挽台地北端部に展開する集落跡である。遺跡の標高は55m前後であり、南西から北東に向かって緩やかな傾斜を有している。遺跡から北東へ約600mで台地縁辺部に達し、眼下には利根川及び小山川により開析された妻沼低地が開けている。沖積地との比高差は、約18m程である。遺跡は、南北約1,000m、東西約1,300mを測り、当地域最大の規模を誇る。

熊野遺跡は、主として奈良・平安時代～中世にかけて営まれた複合遺跡である。それ以前の櫛挽台地北部は、古墳群が造営される墓域であった。熊野遺跡内にも、終末期の帆立貝式古墳であるお手長山古墳と、これに続くと考えられる内出八幡塚古墳（円墳）が築造された。その後７世紀中葉から後半にかけて、遺跡が形成されたことが、これまでの発掘調査により明らかとなっている。

発掘調査は、まず岡部西小学校建設に先立ち、昭和52年～54年に実施されたのが始まりである。３次にわたる調査の結果、奈良～平安時代を中心とした竪穴住居跡83軒、掘立柱建物跡２棟が検出された。遺物では、帯金具や円面硯などの出土が注目される。

また、平成４年度から始まった岡中央土地区画整理事業に伴う発掘調査は、現在までに162次にわたり実施されている。調査の結果、竪穴住居跡700軒、掘立柱建物跡150棟あまりが検出された。このほか、７間×３間の大型建物や、大規模な石組井戸跡、連房式鍛冶工房、大溝等が特筆される。出土遺物では、多量の土器類のほかに、帯金具・円面硯・唐三彩・和同開寶・刻字紡錘車などが特筆される。さらに、鉄製品では鎌・鋤先・斧などの農耕具や刀子などが多いが、鉄鏃や小札などの武器・武具の出土も注目される。

さらに並行して実施された(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団の４次の調査により、竪穴住居跡201軒、掘立柱建物跡110軒、道路状遺構、井戸跡４基などが検出されている。遺物では、陶棺や置きカマドなども出土している。

遺跡が形成されたのは、131次調査１号・２号住居跡から出土した畿内産土師器の年代観から、７世紀第３四半期と推定される。その後、10世紀代まで集落が営まれていたことが判明している。

２．発見された遺構と遺物

今回報告する発掘調査地点は、深谷市岡字内出2855番地他（岡中央土地区画整理地内24街区８画地の一部と９画地）である。平成４年度以降に実施された熊野遺跡内の発掘調査では、162次調査にあたる。

調査により検出された遺構は、奈良時代の竪穴住居跡１軒とピット１基である。

１号竪穴住居跡

平面形態は正方形を呈し、長軸4.51m、短軸4.45mを測る。主軸方位は、N-80°-Wを示す。

壁は垂直に掘り込まれ、床面は平坦である。確認面からの深さは、36cm前後を測る。

ピットは５基が検出された。平面形態はいずれも円形で、直径18～25cm、床面からの深さは55cm前後を測る。このうちの各コーナー寄りの４基が、主柱穴と考えられる。

壁溝はカマドを除き全周した。幅は11～20cm、床面からの深さは５cmを測る。

カマドは、北壁を削り出して構築されていた。袖は粘土の造り付けで、右袖で65cm、左袖で59cmを測る。

燃焼部は、長さ115cm、最大幅55cmを測る。底面は平坦で、煙道に向かい緩やかに立ち上がる。

出土遺物は、土師器の坏・甕・甑、須恵器の蓋・坏・長頸瓶、土製支脚、砥石、磨り石などが出土した。ただし、大半が覆土中層～上層にかけて出土しており、住居廃絶後に投棄された状況が想定される。時期は７世紀第４四半期と考えられる。

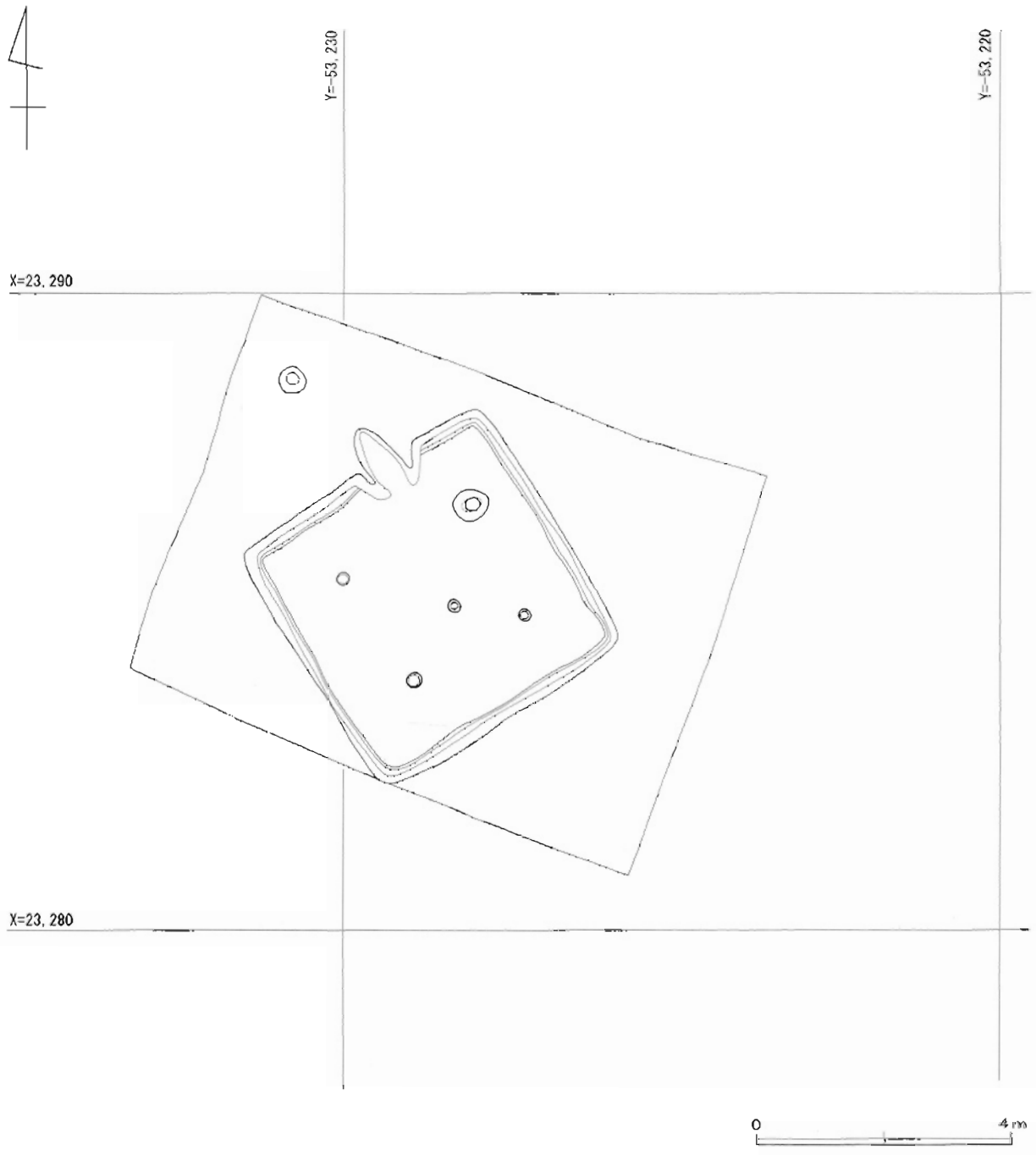
ピット

１号住居跡のカマド先端から北方１mの箇所にピット１基が検出された。

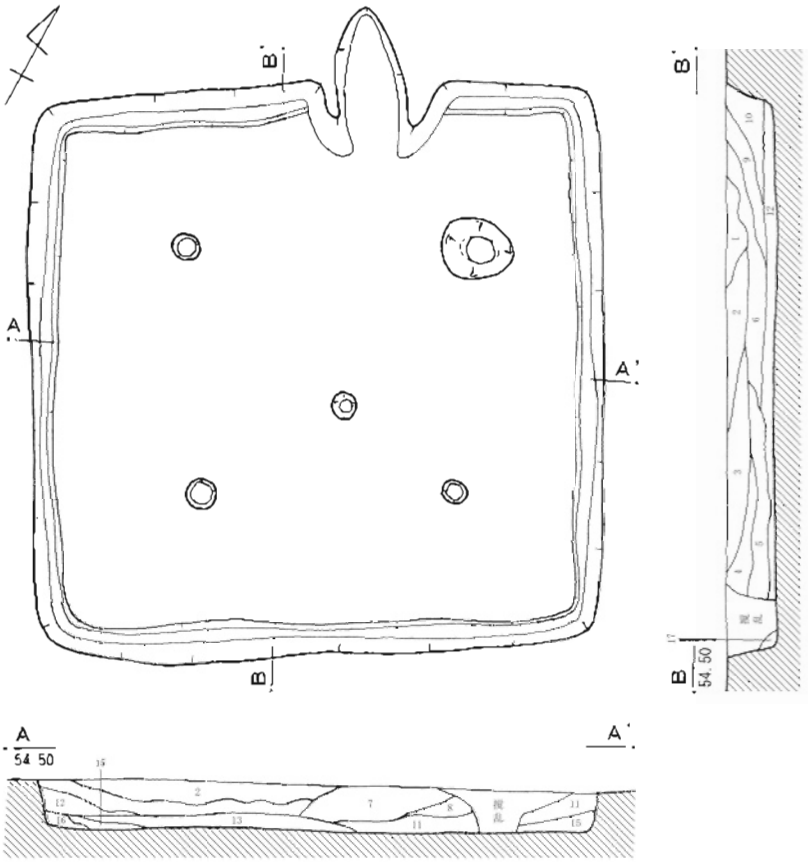
平面形態は円形を呈し、直径43cm、確認面からの深さは23cmを測る。

３．まとめ

本調査地点は、榛沢評家と想定される大型建物群の北西に近接する。本住居跡は、これらと軸を同じくし、本調査区以西には遺構が存在しないエリアが存在することから、遺構群の北端を示すものであろう。



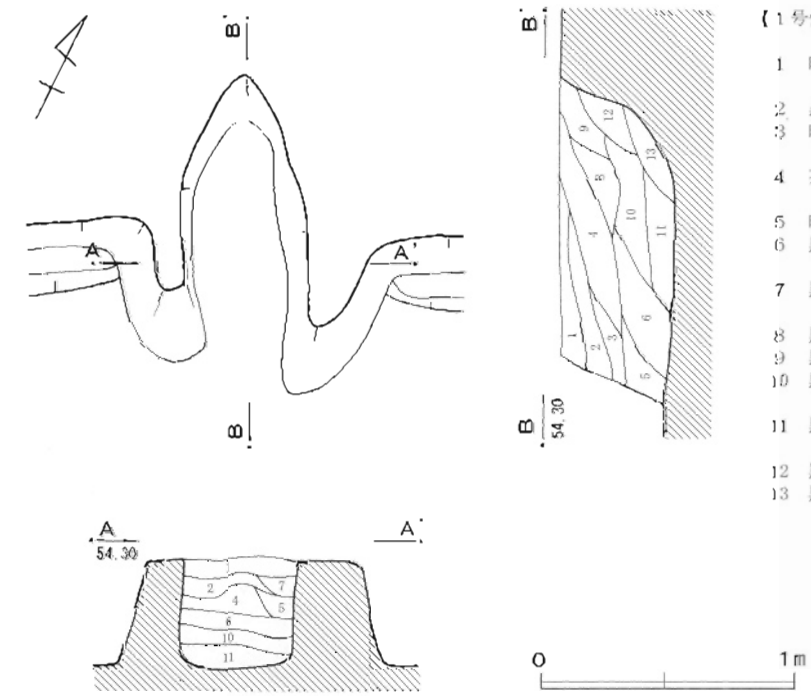
第４図　熊野遺跡162次調査全測図



【1号住居跡土層説明】

1	暗茶褐色土	ローム粒少量、白色粒を微量含む。
2	茶褐色土	ローム粒を微量含む。
3	暗黄褐色土	ローム粒少量、炭化粒・焼土粒を微量含む。粘性ややあり。
4	暗茶褐色土	ローム粒を少量含む。
5	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック・炭化粒を微量含む。
6	茶褐色土	ローム粒少量、炭化粒微量含む。
7	黄褐色土	ローム粒多量、ロームブロック・炭化粒を微量含む。
8	黒褐色土	ローム粒を少量含む。
9	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロックを微量含む。
10	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロックを少量含む。
11	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロックを微量含む。
12	暗茶褐色土	ローム粒少量、ロームブロックを微量含む。
13	黒　色　土	ローム粒・ロームブロックを微量含む。しまり・粘性ややあり。
14	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック微量含む。
15	暗褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
16	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
17	黄褐色土	ローム主体。

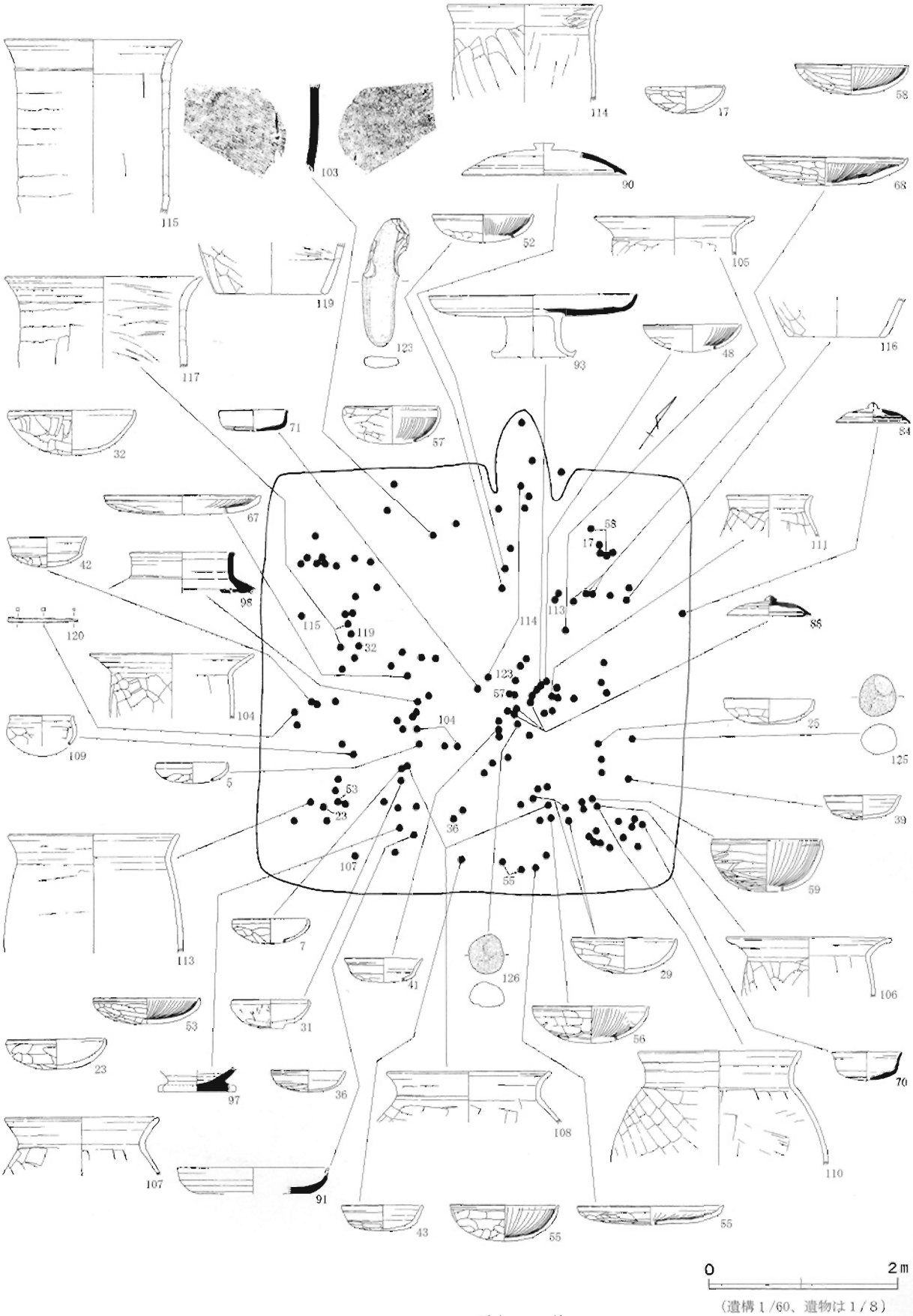
第５図　１号住居跡実測図



【1号住居跡カマド土層説明】

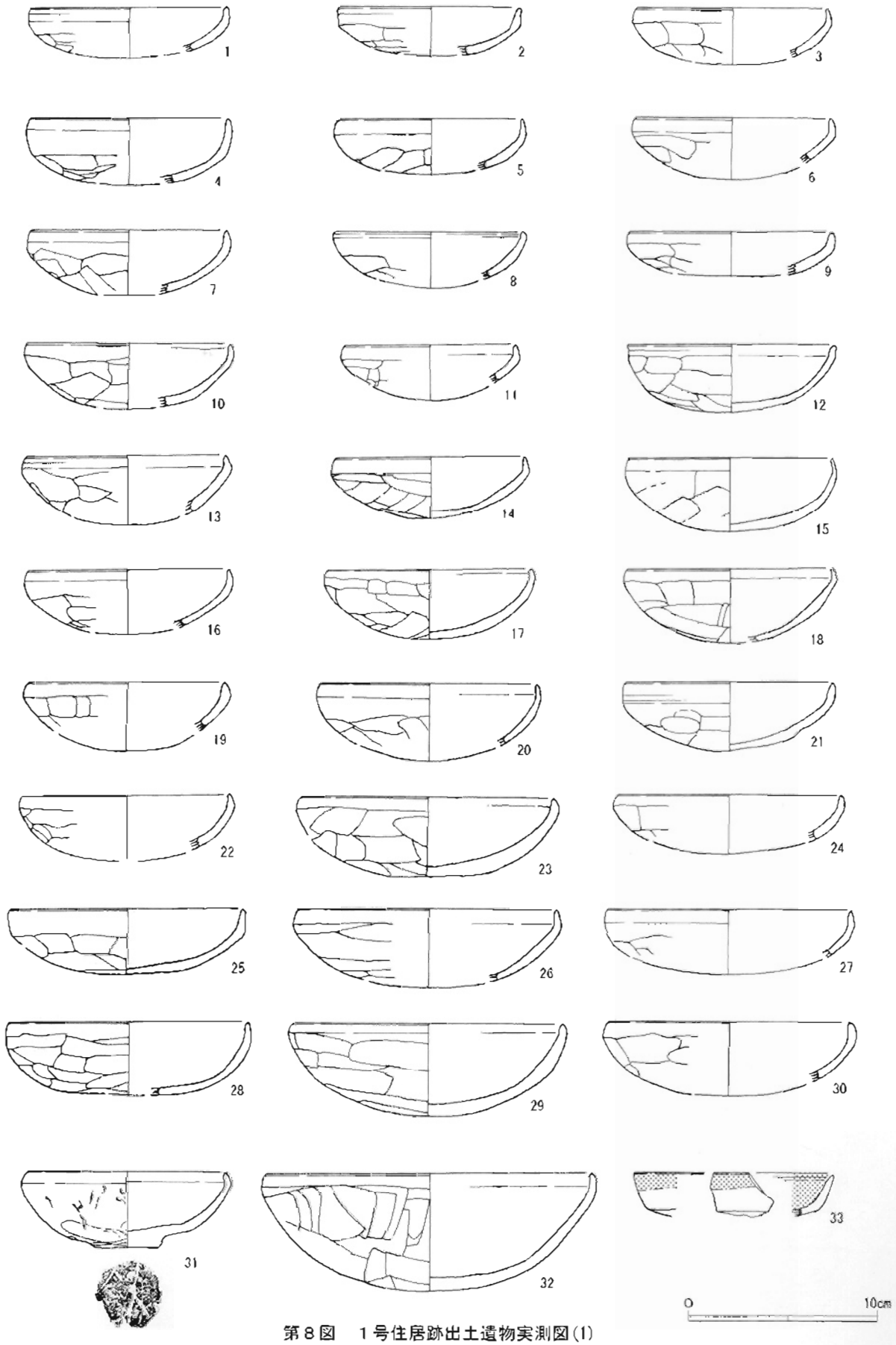
1	暗茶褐色土	ローム粒・ロームブロックを微量含む。しまり・粘性なし。
2	黒褐色土	ローム粒を微量含む。
3	暗茶褐色土	ローム粒少量、ロームブロックを微量含む。
4	茶褐色土	ローム粒少量、ロームブロックを微量含む。
5	暗茶褐色土	ローム粒を多量含む。
6	黒　色　土	ローム粒少量、ロームブロック・焼土粒を微量含む。
7	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロックを微量含む。
8	黒褐色土	ローム粒微量含む。
9	黒褐色土	ローム粒・焼土ブロック少量含む。
10	黒褐色土	焼土粒・焼土ブロック・粘土粒を少量含む。
11	黒褐色土	焼土粒・粘土粒を多量含む。しまり弱い。
12	黒褐色土	焼土粒を多量含む。粘性あり。
13	黒　色　土	焼土粒・焼土ブロックを微量含む。しまり弱い。

第６図　１号住居跡カマド実測図

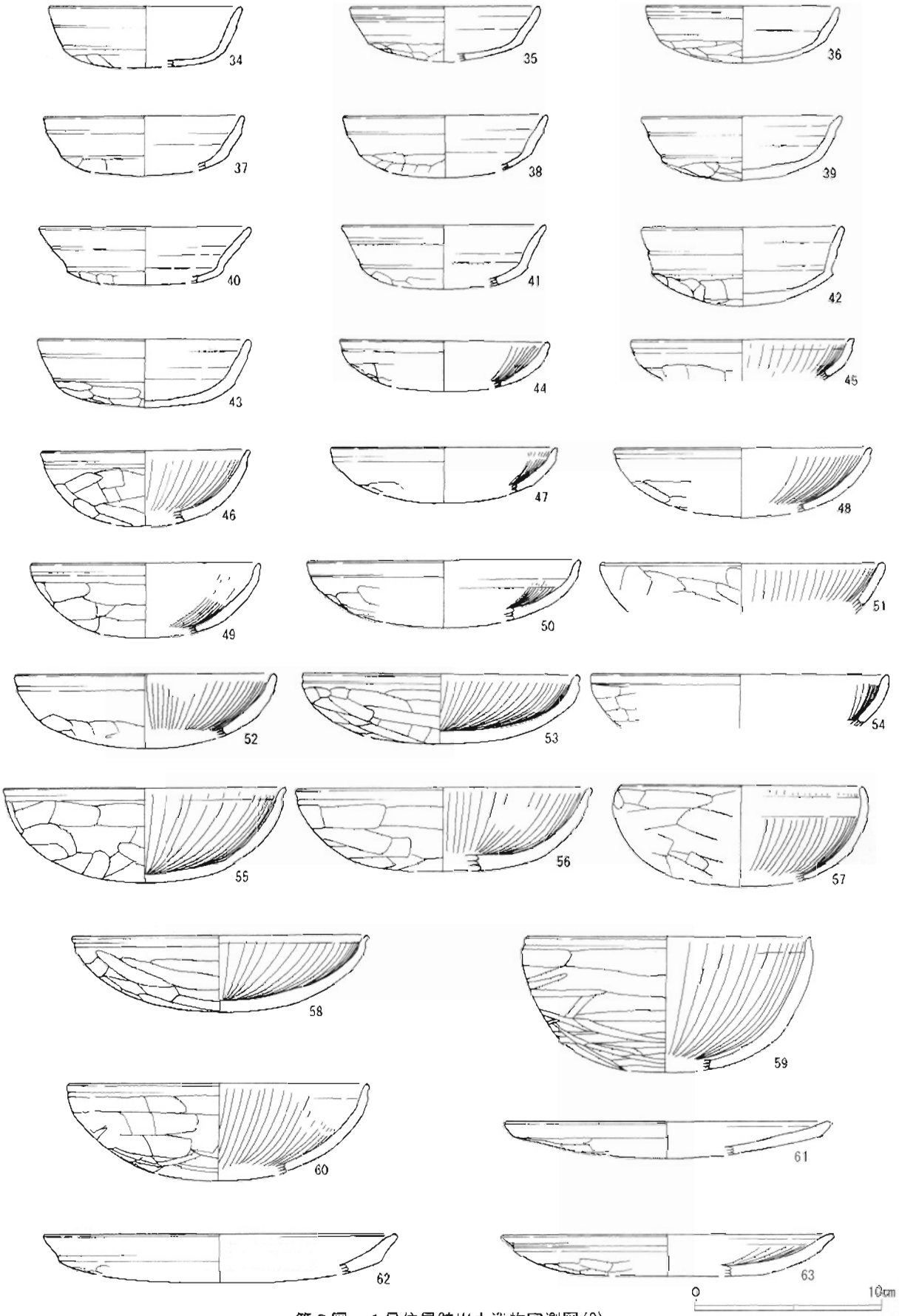


（遺構1/60、遺物は1/8）

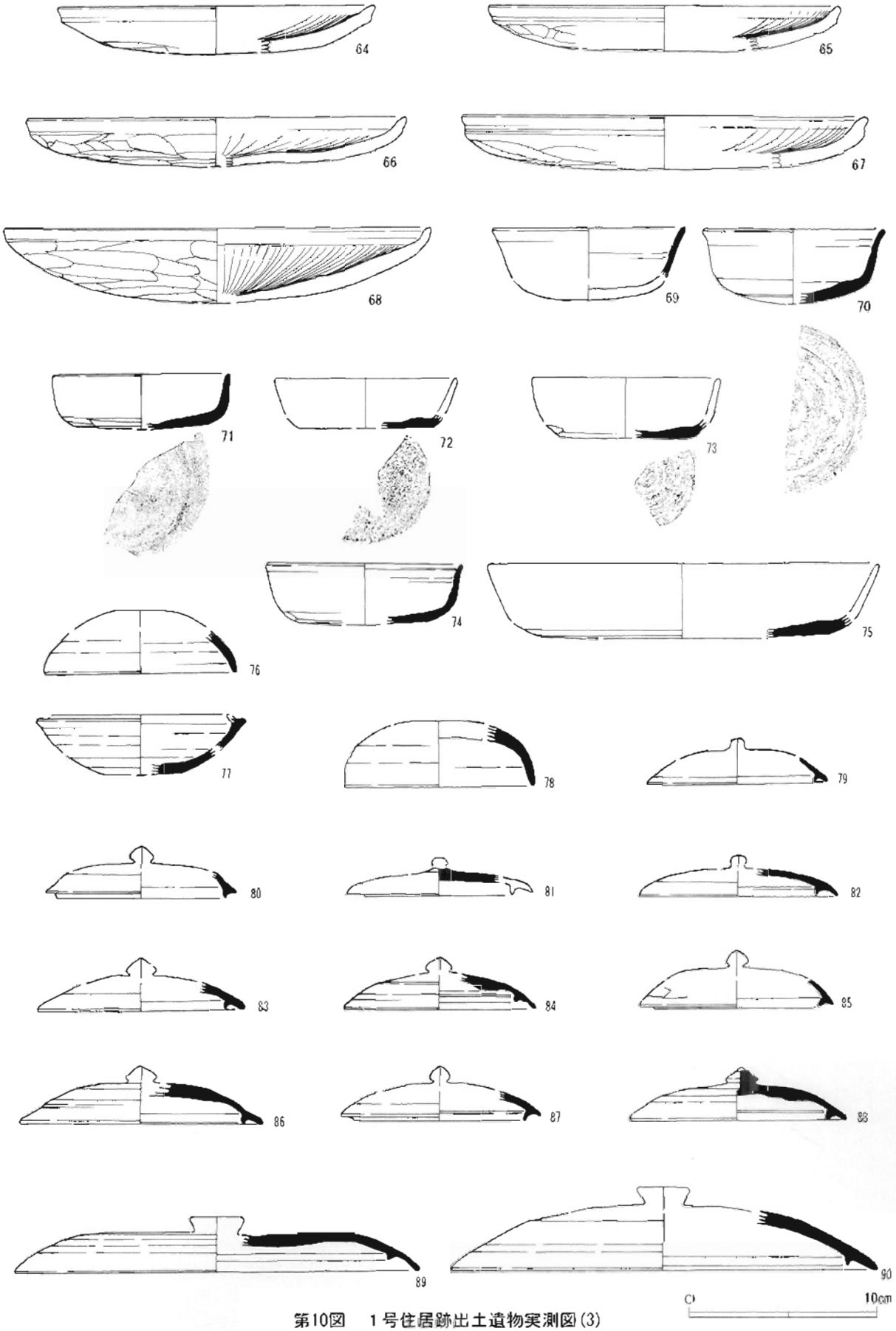
第7図　1号住居跡遺物出土状況図



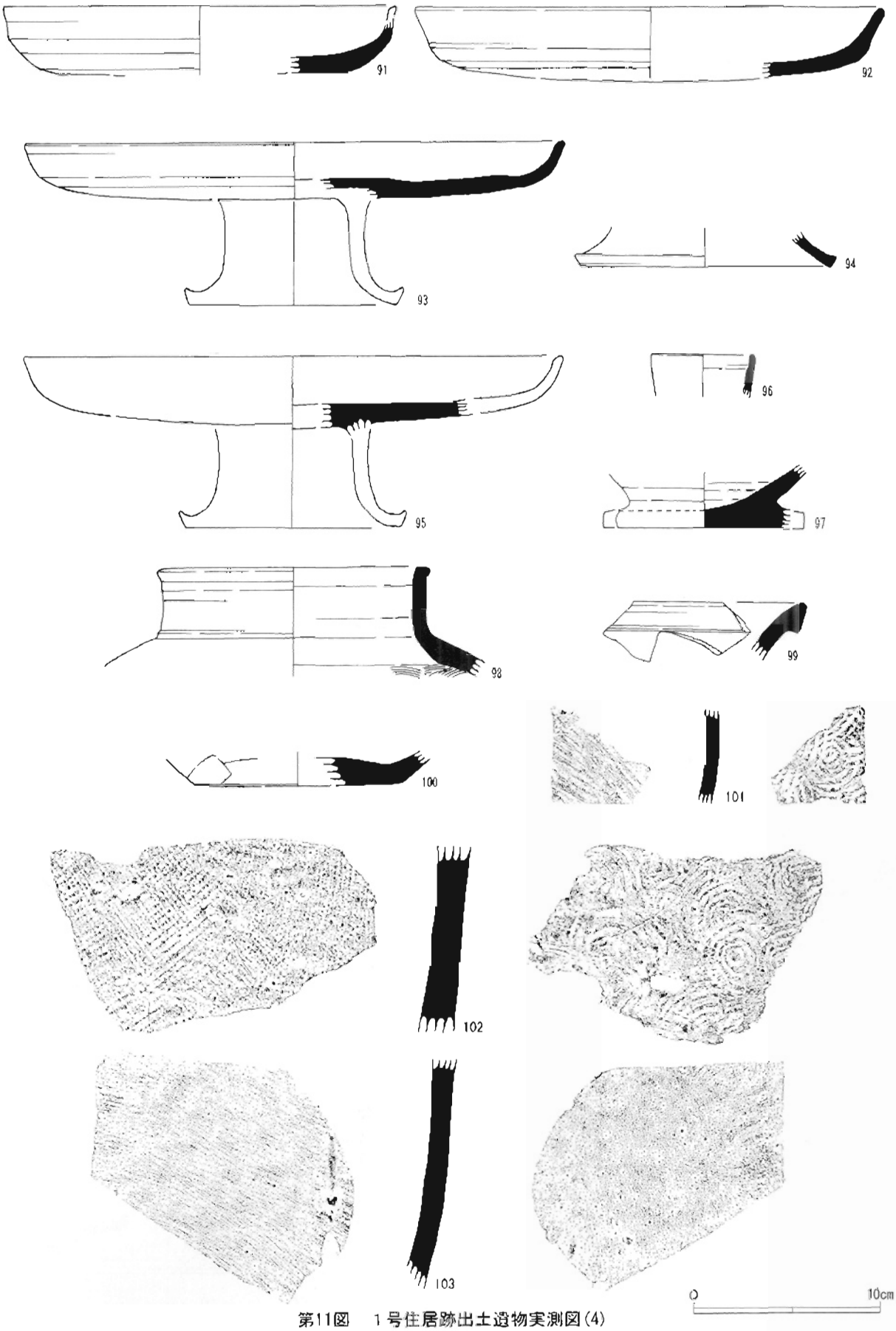
第８図　１号住居跡出土遺物実測図(1)



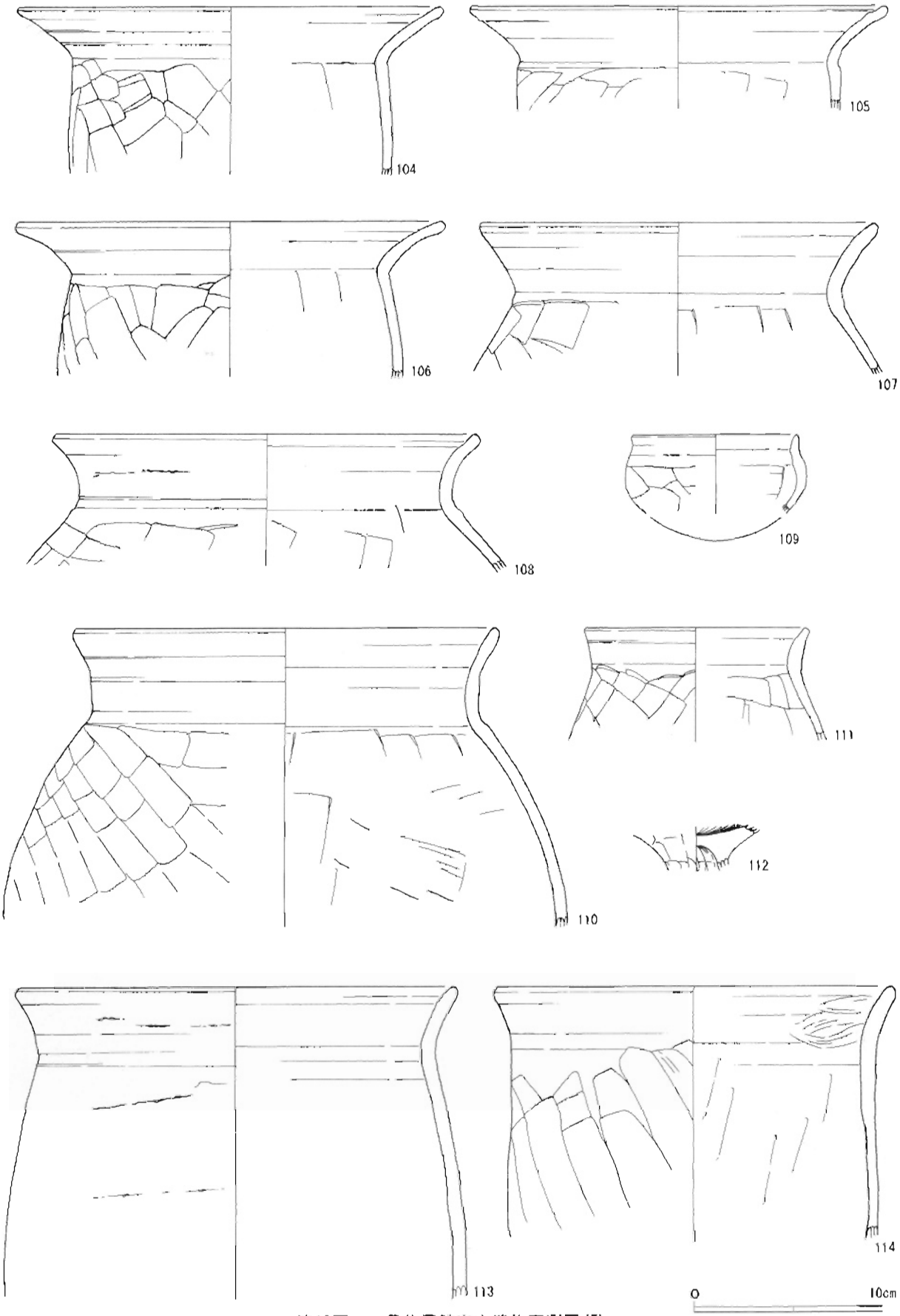
第９図　１号住居跡出土遺物実測図(2)



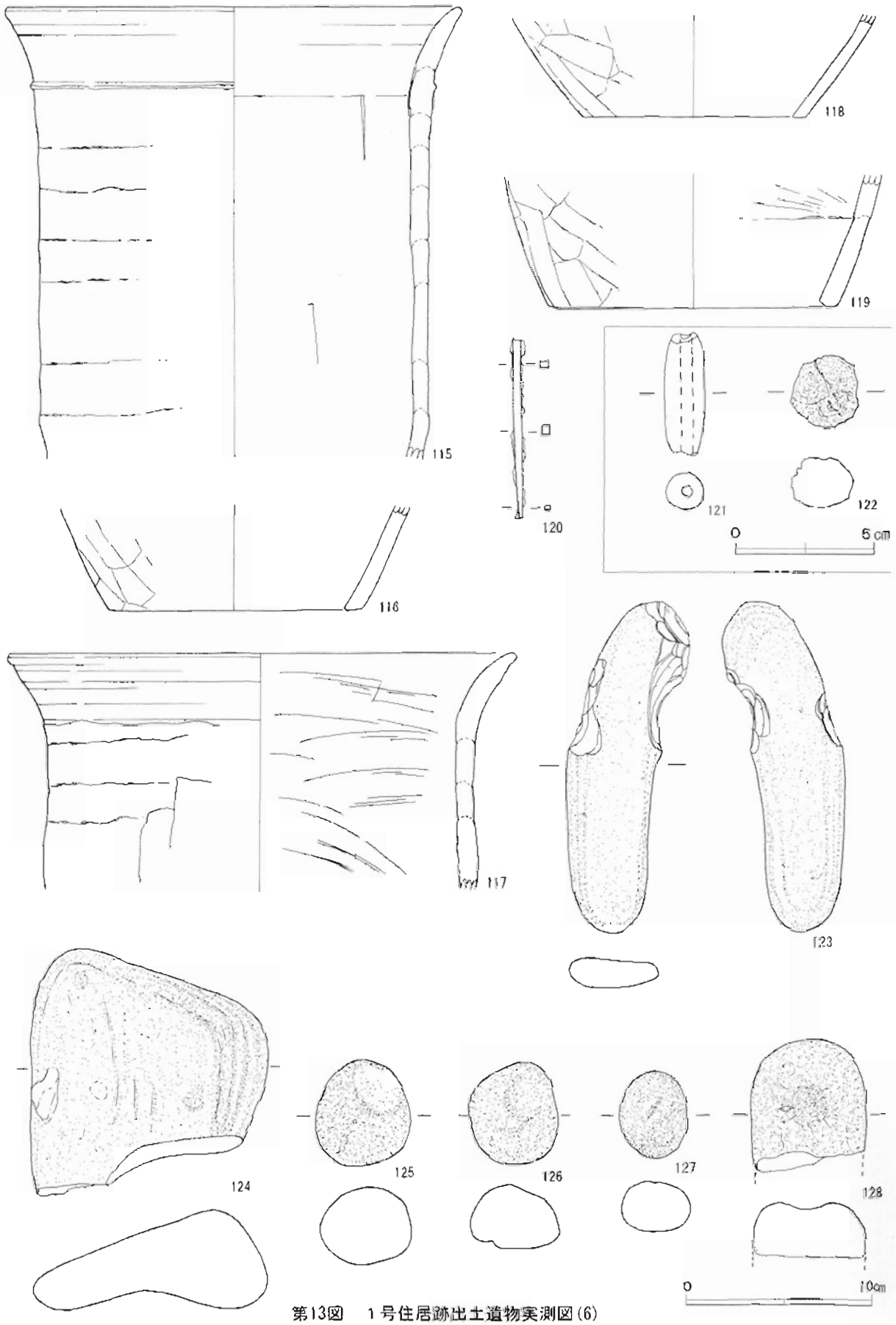
第10図　1号住居跡出土遺物実測図(3)



第11図　1号住居跡出土遺物実測図(4)



第12図　1号住居跡出土遺物実測図(5)



第13図　1号住居跡出土遺物実測図(6)

1号住居跡出土遺物観察表(1)

番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	坏	(10.4)	(2.7)	-	明橙色	普通	雲母、角閃石	図示10%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
2	坏	(9.6)	(2.6)	-	灰赤褐色	良好	精良	図示15%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、模倣坏風
3	坏	(10.0)	(3.0)	-	灰橙色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示20%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、磨滅有り
4	坏	(10.4)	(3.6)	-	灰黄赤色	普通	石英、角閃石、(精良)	図示20%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
5	坏	(9.8)	(2.9)	-	暗橙褐色	普通	精良	図示25%	図示、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
6	坏	(10.3)	(3.3)	-	橙色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示15%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
7	坏	(10.0)	(3.0)	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、(精良)	図示30%	図示、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
8	坏	(10.0)	(3.0)	-	淡茶褐色	良好	精良	図示15%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
9	坏	(10.7)	(2.4)	-	灰橙色	普通	精良	図示12%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、磨滅有り
10	坏	(10.8)	(3.5)	-	橙褐～灰黒色	普通	石英、角閃石、チャート、微砂粒	図示35%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、磨滅有り
11	坏	(9.1)	(3.0)	-	暗灰橙色	良好	石英、輝石	図示20%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
12	坏	11.0	3.6	-	にぶい橙色	普通	石英、角閃石	60%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
13	坏	(10.6)	3.7	-	灰黄赤色	良好	精良	図示20%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
14	坏	(10.0)	3.3	-	灰赤褐色	良好	石英、角閃石、(精良)	40%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
15	坏	10.9	4.0	-	暗橙褐色	普通	石英、雲母	50%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
16	坏	(10.7)	(3.4)	-	灰橙褐色	普通	石英、角閃石、チャート	図示12%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
17	坏	10.8	3.7	-	暗橙褐色	良好	石英、角閃石、輝石	75%	図示、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、内面に油脂状黒斑付着
18	坏	(10.9)	(3.9)	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、雲母	図示40%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
19	坏	(10.4)	(3.6)	-	灰黄赤色	良好	精良	図示15%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
20	坏	(11.5)	(4.0)	-	灰赤褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示15%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
21	坏	11.0	3.6	-	橙褐色	良好	石英、角閃石、微砂粒	70%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、指頭痕有り
22	坏	(11.0)	(3.5)	-	橙褐色	良好	石英、角閃石、(精良)	図示12%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
23	坏	(13.4)	4.2	-	橙色	普通	石英、角閃石、輝石、雲母、微砂粒	60%	図示、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
24	坏	(11.9)	(3.1)	-	灰赤褐色	普通	精良	図示10%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
25	坏	(12.4)	3.5	-	淡橙褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	50%	図示、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
26	坏	(13.8)	4.2	-	淡赤褐色	良好	石英、角閃石、(精良)	図示10%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
27	坏	(13.0)	(3.5)	-	灰橙褐色	良好	精良	図示10%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
28	坏	(12.7)	3.8	-	灰赤褐色	良好	石英、角閃石、(精良)	図示25%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
29	坏	14.4	4.9	-	明橙褐色	普通	石英、角閃石、雲母、微砂粒	80%	図示、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
30	坏	(12.8)	(4.0)	-	橙色	普通	角閃石、微砂粒	図示15%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、磨滅有り
31	坏	(10.4)	4.0	-	橙色	普通	石英、輝石、雲母、微砂粒	99%	図示、口縁部横ナデ、体部外面ナデ及び指頭痕、底部に木葉痕有り、ヘラ削りを施さず
32	坏	17.3	6.2	-	橙褐色	良好	石英、角閃石、微砂粒	80%	図示、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り
33	坏	(10.6)	《2.3》	-	赤褐～橙褐色	良好・堅緻	微砂粒	図示10%	覆土、口縁部外面及び内面赤彩、口唇部内側凹む、比企型坏
34	坏	(10.2)	(3.3)	-	暗橙褐色	普通	石英、角閃石、チャート	図示13%	覆土、口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り、有段口縁坏
35	坏	(10.0)	(3.9)	-	明橙褐色	良好	石英、角閃石、白色粒	図示25%	覆土、口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り、有段口縁坏
36	坏	10.2	3.0	-	明橙褐色	普通	石英、角閃石	75%	図示、口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り、有段口縁坏
37	坏	(10.6)	(3.2)	-	黒褐色	やや悪	石英、角閃石、白色粒	図示25%	覆土、口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り、有段口縁坏
38	坏	(10.8)	(3.3)	-	黒褐～灰褐色	普通	石英、角閃石、酸化鉄粒	図示40%	覆土、口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り、有段口縁坏
39	坏	10.7	3.4	-	黒褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	95%	図示、口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り、内外面に煤付着、有段口縁坏
40	坏	(11.2)	(3.1)	-	明赤褐色	普通	石英、角閃石、白色粒	図示20%	覆土、口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り、有段口縁坏
41	坏	(10.8)	(3.4)	-	橙色	普通	石英、角閃石、パミス	図示25%	図示、口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り、有段口縁坏
42	坏	(10.7)	4.2	-	灰黒色	やや悪	石英、角閃石	55%	図示、口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り、有段口縁坏
43	坏	11.2	3.6	-	暗黄褐色	やや悪	石英、角閃石、黒色粒	60%	図示、口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り、有段口縁坏

1号住居跡出土遺物観察表(2)

番号	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	焼　成	胎　土	残存率	備　考
44	坏	(11.1)	(2.9)	-	明赤褐色	普　通	石英、角閃石	図示12%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文
45	坏	(11.8)	《2.2》	-	橙褐色	普　通	石英、角閃石、赤色粒、微砂粒	図示20%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文
46	坏	(11.1)	(4.1)	-	橙褐色	普　通	石英、角閃石、輝石、微砂粒	図示40%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文
47	坏	(12.0)	(3.0)	-	黄橙色	普　通	石英、角閃石	図示12%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文
48	坏	(13.7)	(3.8)	-	赤橙色	良　好	石英、角閃石、微砂粒	図示20%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文
49	坏	(12.1)	(4.0)	-	橙　色	普　通	石英、角閃石、微砂粒	図示30%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文、磨滅が著しい
50	坏	(14.5)	3.5	-	明橙色	普　通	石英、角閃石	図示15%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文
51	坏	(15.1)	《2.2》	-	黄橙色	普　通	石英、角閃石、微砂粒	図示20%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文
52	坏	(13.8)	(4.0)	-	暗赤褐色	普　通	石英、角閃石、白色粒	図示30%	図示、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文、内外面に油脂状黒斑付着
53	坏	(14.7)	3.7	-	橙褐色	良　好	石英、角閃石	65%	図示、確認面、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文
54	坏	(15.8)	《2.8》	-	橙褐色	普　通	石英、長石、角閃石	図示10%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文
55	坏	15.0	5.1	-	暗橙褐～黒褐色	普　通	石英、角閃石	90%	図示、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文、内面に油脂状黒斑付着
56	坏	(15.7)	(4.4)	-	黄灰～灰褐色	不　良	石英、角閃石、微砂粒	図示25%	図示、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文、油脂状黒斑、摩滅有り
57	坏	(12.9)	(5.4)	-	橙　色	良　好	石英、角閃石、微砂粒	図示20%	図示、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文、深身
58	坏	15.8	4.1	-	赤褐色	良　好	石英、角閃石、チャート、白色粒	80%	図示、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文
59	坏	(15.1)	(7.3)	-	にぶい橙色	良　好	石英、角閃石、微砂粒	図示35%	図示、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ、下端ヘラミガキ、内面放射状暗文、深身
60	坏	(16.0)	(5.2)	-	赤褐色	良　好	石英、角閃石、白色粒	図示20%	覆土、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、体部下端ヘラミガキ、内面放射状暗文
61	皿	(17.4)	(2.4)	-	明赤褐色	良　好	石英、角閃石、チャート	図示10%	覆土、口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り
62	皿	(18.8)	《2.2》	-	明橙褐色	普　通	石英、角閃石、雲母	図示10%	覆土、口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り
63	皿	(17.6)	(2.2)	-	赤褐色	良好・堅緻	石英、角閃石、赤色粒	図示15%	覆土、口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文
64	皿	(16.7)	(2.6)	-	灰黒褐色	やや悪	石英、角閃石、長石	図示15%	覆土、口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文
65	皿	(18.7)	(2.4)	-	明赤褐色	普　通	石英、角閃石、微砂粒	図示15%	覆土、口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文
66	皿	(20.2)	(2.6)	-	橙　色	普　通	石英、角閃石	図示27%	図示、口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文
67	皿	(21.6)	(2.8)	-	橙褐色	良　好	石英、角閃石、微砂粒	図示20%	図示、口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文
68	皿	(22.7)	(4.0)	-	灰褐～黒褐色	やや悪	石英、角閃石、長石	図示45%	図示、Pit-1、口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文
69	須恵器 坏	(10.2)	《2.7》	-	明灰色	普　通	石英、長石、(粗い)	図示15%	覆土、ロクロ調整、末野
70	須恵器 坏	(9.6)	4.0	(8.0)	淡灰色	良　好	長石、黒色粒、微砂粒少量	図示40%	図示、ロクロ調整、底部ヘラ切り未調整、末野
71	須恵器 坏	(9.4)	2.9	(8.7)	黄灰白色	不　良	石英、黒色粒	図示35%	図示、ロクロ調整、底部手持ちヘラ削り、末野
72	須恵器 坏	-	《0.6》	(7.0)	明灰色	普　通	石英、長石、黒色粒	図示45%	覆土、ロクロ調整、底部かるい手持ちヘラ削り、末野
73	須恵器 坏	-	《1.1》	(7.0)	明灰色	普　通	石英、長石、片岩、細礫	図示25%	覆土、ロクロ調整、底部回転ヘラ削り＋面取り、末野
74	須恵器 坏	(10.4)	3.2	(9.0)	明灰色	普　通	石英、長石、片岩、(粗い)	図示15%	覆土、ロクロ調整、底部手持ちヘラ削り、口唇部内面凹む、末野
75	須恵器 坏	-	《1.2》	(15.9)	灰白色	やや悪	石英、長石、黒色粒	図示10%	覆土、ロクロ調整、底部回転ヘラ削り＋面取り、磨滅有り、末野
76	須恵器 蓋	(10.1)	《2.3》	-	淡灰色	良好・堅緻	精良	図示10%	覆土、ロクロ調整、坏H、湖西産
77	須恵器 坏	(9.3)	(3.2)	-	淡灰色	良好・堅緻	精良	図示10%	覆土、ロクロ調整、底部回転ヘラ削り、坏H、湖西産,
78	須恵器 蓋	(10.0)	《3.3》	-	黄灰色	やや悪	石英、黒色粒	図示20%	覆土、ロクロ調整、磨滅有り、坏H、産地不明
79	須恵器 蓋	(9.6)	《1.3》	-	淡灰色	良　好	石英、長石、(精良)	図示15%	覆土、ロクロ調整、群馬産？
80	須恵器 蓋	(10.0)	《1.4》	-	灰褐色	普通・酸化焔	微砂粒、片岩	図示7%	覆土、ロクロ調整、末野
81	須恵器 蓋	-	《0.8》	-	灰　色	良　好	石英、長石	図示40%	覆土、ロクロ調整、天井部回転ナデ、末野
82	須恵器 蓋	(10.6)	《1.5》	-	灰白色	やや悪	石英、長石	図示10%	覆土、ロクロ調整、天井部回転ヘラ削り、末野
83	須恵器 蓋	(10.8)	《1.5》	-	暗灰橙色	良好・酸化焔	石英、長石	図示10%	覆土、ロクロ調整、天井部回転ヘラ削り、末野
84	須恵器 蓋	(10.2)	《1.9》	-	灰　色	良　好	石英、長石、黒色粒、(粗い)	図示40%	図示、ロクロ調整、天井部回転ヘラ削り、末野
85	須恵器 蓋	(10.2)	《1.5》	-	明灰色	普　通	石英、長石	図示10%	覆土、ロクロ調整、天井部手持ちヘラ削り、末野
86	須恵器 蓋	(12.8)	《2.2》	-	灰褐色	普通・酸化焔	石英、長石	図示15%	覆土、ロクロ調整、天井部回転ヘラ削り、末野

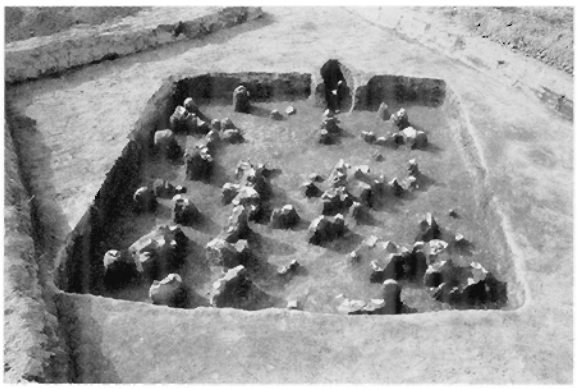
1号住居跡出土遺物観察表(3)

番号	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	焼　成	胎　土	残存率	備　考
87	須恵器 蓋	(10.6)	《1.6》	-	明灰色	普　通	長石、片岩	図示10%	覆土、ロクロ調整、天井部回転ナデ、末野
88	須恵器 蓋	11.5	(2.8)	-	灰　色	良　好	石英、長石、片岩、(粗い)	99%	図示、ロクロ調整、天井部回転ヘラ削り、つまみ宝珠、末野
89	須恵器 蓋	(21.5)	《2.2》	-	明灰色	普　通	石英、長石	図示35%	覆土、ロクロ調整、天井部回転ヘラ削り、歪み有り、末野
90	須恵器 蓋	(22.7)	《3.2》	-	にぶい黄灰色	普　通	石英、長石、片岩	図示25%	図示、ロクロ調整、天井部回転ヘラ削り、末野
91	須恵器 盤	-	《3.0》	(15.1)	灰褐色	普　通	石英、長石、片岩	図示10%	図示、ロクロ調整、底部～体部下端かるい回転ヘラ削り、末野、脚付盤の可能性あり
92	須恵器 盤	(24.9)	《3.8》	(22.3)	淡黄灰色	普　通	石英、チャート、褐色粒	図示15%	覆土、ロクロ調整、底部回転ヘラ削り、末野
93	須恵器脚付盤	(28.8)	《3.0》	-	明灰色	普　通	石英、長石、黒色粒	図示25%	図示、ロクロ調整、外面回転ヘラ削り、内面青海波叩き後回転ナデ、末野
94	須恵器脚付盤	-	《2.0》	(13.3)	灰褐色	普　通	石英、長石	図示15%	覆土、ロクロ調整、末野
95	須恵器脚付盤	-	《1.6》	-	橙褐色	不　良	石英、長石、赤色粒	図示15%	覆土、ロクロ調整、外面回転ナデ、末野
96	須恵器平瓶?	(5.4)	《2.4》	-	淡灰緑色	良好・堅緻	長石、(精良)	図示15%	覆土、ロクロ調整、内外面に降灰釉、秋間産
97	須恵器擂鉢	-	《3.0》	-	黄灰色	不良・酸化焔	石英、長石、片岩、角閃石、赤色粒	図示90%	図示、底部無調整、磨滅有り、末野
98	須恵器短頸壺	(14.6)	《5.9》	-	淡灰色	普　通	石英、長石、黒色粒	図示15%	図示、ロクロ調整、内面青海波叩き、外面平行叩き後回転ナデ、末野
99	須恵器 甕	-	-	-	灰黒色	良　好	石英、長石	破片	覆土、ロクロ調整、末野
100	須恵器 甕	-	《1.9》	(11.0)	淡灰色	良　好	長石、黒色粒	図示20%	確認面、底部手持ちヘラ削り、群馬産?
101	須恵器 甕	-	-	-	灰白色	やや悪	石英、長石、黒色粒	破片	覆土、内面青海波叩き、外面平行叩き後ナデ、末野
102	須恵器 甕	-	-	-	灰黒色	やや悪	石英、長石、片岩	破片	確認面、内面青海波叩き、外面平行叩き、素地土は練り甘く火脹れが多い、末野
103	須恵器 甕	-	-	-	暗灰色	良　好	石英、長石	破片	図示、内面青海波叩き、外面平行叩き、末野
104	甕	(22.4)	《9.1》	-	灰橙褐色	普　通	石英、角閃石、長石、パミス、微砂粒	図示20%	図示、口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ
105	甕	(22.2)	《5.6》	-	橙　色	普　通	石英、角閃石、微砂粒	図示20%	図示、口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ、口唇部内側凹む
106	甕	(22.6)	《8.4》	-	灰橙色	普　通	石英、角閃石、長石、微砂粒	図示25%	図示、口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ
107	甕	(21.0)	《8.2》	-	灰赤褐色	普　通	石英、角閃石、チャート、微砂粒	図示30%	図示、口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ
108	甕	(22.4)	《6.4》	-	灰褐色	普　通	石英、角閃石、雲母、微砂粒	図示15%	図示、口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ、口唇部内側凹む
109	小形甕	(9.8)	《4.3》	-	灰赤褐色	良　好	石英、(精良)	図示15%	図示、口縁部横ナデ、体部手持ちヘラ削り、内面ヘラナデ
110	甕	(22.4)	《16.0》	-	明橙色	普　通	石英、角閃石、チャート、長石、砂粒	図示20%	図示、口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ
111	小形甕	(11.7)	《6.0》	-	にぶい赤褐色	普　通	石英、角閃石、パミス、雲母	図示25%	図示、口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ
112	高　坏	-	《2.5》	-	黒褐色	普　通	石英、角閃石	図示90%	覆土、脚部手持ちヘラ削り、内面放射状暗文
113	甑	(23.2)	《16.7》	-	にぶい橙褐色	普　通	砂粒、パミス	図示20%	図示、口縁部横ナデ、体部ナデ
114	甑	(21.2)	《13.6》	-	灰褐色	普　通	石英、角閃石、パミス、砂粒	図示20%	図示カマド、口縁部横ナデ一部指ナデ、内面ヘラナデ
115	甑	(24.4)	《24.4》	-	暗橙褐色	普　通	石英、長石、角閃石、パミス、砂粒	図示20%	図示、口縁部横ナデ、体部ナデ、内面ヘラナデ、輪積痕顕著
116	甑	-	《5.7》	(13.5)	灰橙色	普　通	石英、角閃石、パミス	図示10%	図示、外面ヘラ削り、内面ヘラナデ
117	甑	(27.0)	《12.7》	-	橙茶褐色	普　通	石英、角閃石、長石、雲母、砂粒	図示20%	図示、口縁部横ナデ、体部ナデ、内面ヘラナデ、輪積痕顕著
118	甑	-	《5.6》	(12.1)	暗褐色	普　通	石英、角閃石、パミス、砂粒	図示15%	覆土、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ、底部面取り
119	甑	-	《7.2》	(15.6)	暗褐～灰褐色	良　好	石英、角閃石、チャート、パミス、砂粒	図示15%	図示、体部ヘラ削り、底部面取り、内面ヘラナデ
120	鉄　釘	長さ 9.2cm	幅 0.5cm	厚さ 0.5cm	重さ 5.6g	-	-	90%	図示、細い角棒状
121	土　錘	長さ 4.4cm	幅 1.4cm	厚さ 1.4cm	重さ 8.9g	橙褐色	石英、角閃石、微砂粒	90%	覆土、表面ナデ、両端部欠損
122	鉄　滓	長さ 2.6cm	幅 2.4cm	厚さ 1.8cm	重さ 13.0g	磁着度 中	-	100%	覆土、球形で亀裂有り、銑鉄か?
123	編物石か	長さ 17.8cm	幅 5.0cm	厚さ 1.6cm	重さ 226.0g	石質石墨片岩	-	100%	図示、両側面に敲打による抉りがある
124	磨痕石	長さ 13.2cm	幅 12.7cm	厚さ 5.6cm	重さ 935.0g	石質石英安山岩	-	70%	確認面、砥石として使用か?
125	球形磨痕石	長さ 5.7cm	幅 5.0cm	厚さ 4.2cm	重さ 54.5g	石質角閃安山岩	-	100%	図示
126	球形磨痕石	長さ 5.5cm	幅 4.8cm	厚さ 3.5cm	重さ 40.4g	石質角閃安山岩	-	100%	図示
127	球形磨痕石	長さ 4.7cm	幅 3.7cm	厚さ 2.7cm	重さ 23.8g	石質角閃安山岩	-	100%	覆土
128	凹石・磨痕石	長さ 7.1cm	幅 6.2cm	厚さ 3.4cm	重さ 23.8g	石質 砂岩	-	40%	覆土

第14図　熊野遺跡162次調査区周辺遺構図

写　真　図　版

熊野162次全景


１号住居跡遺物出土状況

１号住居跡カマド

１号住居跡カマド遺物出土状況

１号住居跡No.12

１号住居跡No.15

１号住居跡No.17

１号住居跡No.21

１号住居跡No.29

１号住居跡No.31

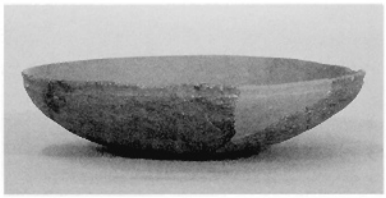
１号住居跡No.32

１号住居跡No.36

１号住居跡No.39

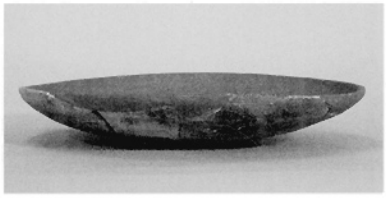
図版２

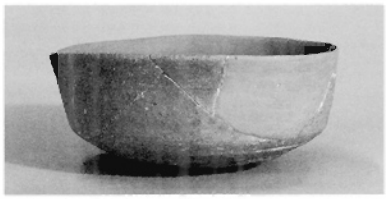
1 号住居跡No.43


1 号住居跡No.53

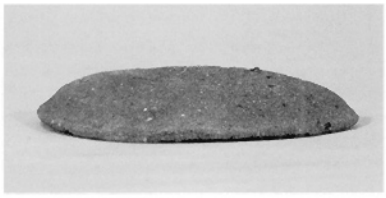
1 号住居跡No.55

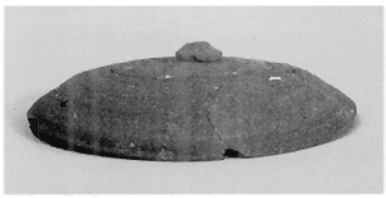
1 号住居跡No.58


1 号住居跡No.68


1 号住居跡No.70

1 号住居跡No.78


1 号住居跡No.84

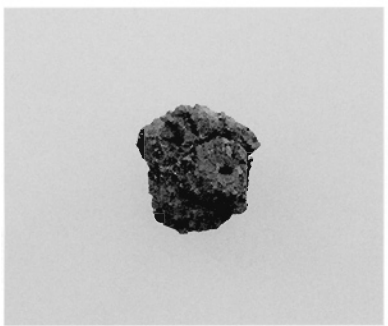

1 号住居跡No.88

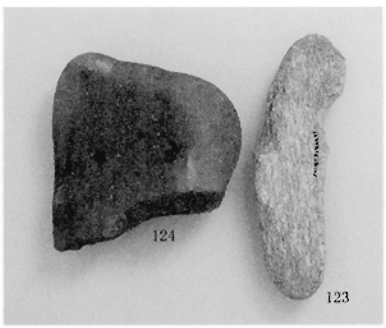
1 号住居跡No.104

1 号住居跡No.107

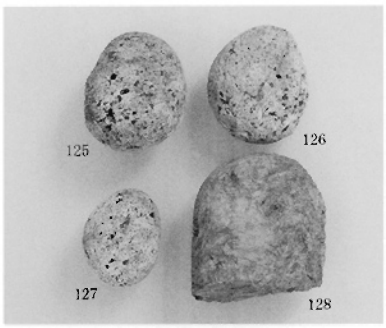
1 号住居跡No.120

1 号住居跡No.121


1 号住居跡No.122



1 号住居跡No.123・124



1 号住居跡No.125～128

報告書抄録

ふりがな	くまのいせき
書　名	熊野遺跡Ⅷ
副書名	
シリーズ	深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　次	第84集
編著者名	宮本直樹・竹野谷俊夫
編集機関	深谷市教育委員会
所在地	〒366-0823　深谷市本住町17番地３　℡048(572)9581
発行日	平成19年３月15日

所収遺跡	所在地	コード 市町村	コード 遺跡	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
熊野遺跡（162次調査）	埼玉県深谷市岡字内出2855-4他	11218	63-017	36° 12′ 31″	139° 14′ 28″	平成18年４月11日から平成18年４月26日まで	50㎡	アパート建設

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落跡 官衙跡 居館跡	奈良時代	竪穴住居跡 ピット	土師器 須恵器 鉄製品	竪穴住居跡１軒の調査であったが、７世紀後葉の良好な土器群が出土した。

熊野遺跡Ⅷ

2007年３月15日

編集発行　●深谷市教育委員会
埼玉県深谷市本住町17番地３